

新ICT利活用サービス創出支援事業「メタデータ情報基盤構築事業」

第1回検討会 要旨

メタデータ情報基盤構築事業事務局

■ ICT事業内容説明（1）

（筑波大学 知的コミュニティ基盤研究センター 教授 杉本氏）

○要旨

情報資源へのアクセスでたとえば書物を考えるとMLAはその周囲にあるコミュニティである。書物の新旧にかかわらず、あるいは美術品等もコミュニティ間で情報がうまくつながっていない現状があり。MLAの垣根を越えたアクセスをしたい。その上その他のコミュニティとも相互に各種資源を共有したい。これを解決するのがメタデータである。ネット上でメタデータスキーマの情報を共有しコミュニティを超えたデータへのアクセスが実現可能となる。

メタデータ情報基盤とはメタデータスキーマの収集、蓄積を行いそれをネット上で提供することでスキーマの再利用・共通化を推進するものである。WWWの標準形式を利用することで流通性を高める。異なるコミュニティでデータを相互運用するための基盤構築事業となる。

メタデータ情報基盤研究会を筑波大学の研究センター設置した。研究会が本プロジェクトに助言をし、またメタデータスキーマの提供等をしていく予定となっている。蓄積したメタデータスキーマは本プロジェクト終了後、筑波大学に置き継続的な運用を考えている。将来的には他機関の助力を得ることも考えている。

■ ICT事業内容説明（2）

（インフォコム株式会社 デジタルアーカイブシステム部 テクニカルクリエイショングループ 課長 鳥越氏）

○要旨

新ICT利活用サービス創出支援事業提案時の資料を元に概要説明。メタデータ情報基盤を構築し利用していただくのが趣旨である。各種団体のメタデータを収集し基盤とし提供する。これは新メタデータを作成するときの元となったり、電子出版における素材の提供等の用途が見込まれる。メタデータの利用高度化と相互運用を目標としている。

研究会よりデータ構造の提供を受け、それを標準化してメタデータ情報基盤システムに組み込み一般にサービスを実施する。最終的にはメタデータを用いた新サービスの提供につながっていけばと考えている。また共有のためのガイドラインの策定も必要である。実際に動くシステムを作成し評価してリリースしていく。本システムが稼働すると所蔵組織は自身のメタデータ構造を検証することができる。これによりメタデータの標

準化が目指せる。また、各機関のメタデータ構造がわかるということは、データ連携あるいは新データの発見が容易となり新たなサービス創出につながると考えている。

プロジェクト終了後の展開は新法人を立ち上げ法人会員を募り会費によりサービスの継続を考えている。筑波大での設置が決まっているのでコスト最小での運用が可能である。ターゲットはMLAにとどまらず出版などあらゆる団体におよぶ。

■実施概要説明（筑波大学 図書館情報メディア研究科 講師 永森氏）

○要旨

実施計画骨子の説明。4件の実施項目がり、これは大きく2つに分かれる一つはサービスの創出に向けた開発と実証を3つに分けている。機能要件の定義、開発、実証と運用となる。2番目としては技術確立、標準化、ガイドライン策定となる。

1. メタデータ・スキーマ・レジストリ機能要件の定義は3つあり、記述規則収集・登録、提供者のレジストリ利用に関する要件、メタデータ利用して高度なサービスを展開するための要件となる。
2. メタデータ・スキーマ・レジストリの開発は1の機能要件に基づき設計を行う。モデル設計はレジストリ内部設計を実施しスキーマの表現形式を決定する。また、開発言語とライブラリ、データベースの検討し基盤システム設計を行う。その後システム構築に移行する。記述規則収集部分は先行開発となる。
3. レジストリ利用の実証と運用は構築したシステムの実証、評価となる。また、継続的な維持管理体制についても検討していく。
4. メタデータ共有のガイドライン作成は研究会での議論も予定している。DCを基準とした相互運用のための推奨項目等各種基準や推奨を考えていく。

■質疑応答

（司会：筑波大学 知的コミュニティ基盤研究センター 教授 杉本氏）

レジストリ関連の話題とその登録・利用についての話題を中心に質疑応答が行われた。

以上